

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①特色ある国際理解教育と「総合的な探究の時間」に係る研究と実践をとおして、探究的でグローバルな視野を持つ人材を育成する。</p> <p>②「育てたい生徒像」を見据え、共通性と多様性のバランスに配慮した教育課程の策定と実施を図るとともに、特別活動の充実をめざす。</p> <p>③「主体的・対話的で深い学び」をめざし、授業改善を実施する。</p> <p>④基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>①英語4技能の検定試験を継続、検証し、授業に生かす。また、SDGsに係る探究の研究指定2年目として、前年度の課題を整理し、新1年生の展開に活かすと共に、新2年生での新たな取組を計画・実施し、成果発表の場を設ける。</p> <p>③④「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善のテーマを設定し、学校全体で取り組むとともに、ICTを活用した学習支援体制を推進し、生徒が主体的に学習に取り組む環境を整備する。</p>	<p>①GTECを継続的に実施し、結果を分析して、課題を日常の授業に反映させる。また、SDGs探究活動の成果をグループや個人で発表する。</p> <p>③④各教科共通のテーマで授業づくりを行い、授業公開や研修会を実施するとともに、定期試験で問題の7割共通化を進める。また、Google Classroomを利活用した授業実践を通して生徒の主体的な学習態度を育む。</p>	<p>①4技能型GTECを実施し、把握した課題を日常の授業に反映する取組ができたか。また、SDGs探究活動成果の発表を行うことができたか。</p> <p>③④共通テーマを設定し授業改善を行うとともに、定期試験で問題の7割共通化を実現できたか。また、Google Classroomを利活用した授業実践を行ったか。</p>	<p>①4技能型GTECを1・2年生で、3技能型を3年生で実施した。結果を分析し、課題とされたwritingについては、授業の中で様々なトピックで英作文指導を行った。SDGs探究活動については、1年生は探究と調べ学習の違いの学習、2年は研究課題の設定をメインに行った。その取組成果について、1年生はグループで、2年生は個人で発表した。</p> <p>③④ICTを活用した学校における学習と家庭学習の連携という各教科共通のテーマを設定した。また、「Google Classroomを通じて課題を提示・回収する方法」「動画配信、オンライン授業の方法」といった校内研修会を実施した。定期試験における問題の共通化は、教材の共有を図り昨年度より共通化が進んだが、科目の中には7割まで達しないものがあつた。</p>	<p>①GTECの結果分析から得られた課題を教科で共有し、課題解決に向けた授業改善に取り組む。また、コロナ禍の影響で発話を伴う学習に制限が生じている。飛沫防止カバー等を活用していきたい。SDGs探究活動については、引き続き課題発見・課題解決といった学習活動を進め、オンラインによる発表方法も検討していきたい。</p> <p>③④ICTを活用した授業改善に向け、共通テーマを設定できたが、今後さらに校内研修を進め、授業実践に生かし、生徒の主体的学習を促していきたい。校内のWiFi環境は不安定な面が残るが、特別教室など、使用できる場所が増えたので、より一層活用に向けて取り組んでいきたい。</p>	<p>①生徒の総合的な英語力を測定するのにGTECを効果的に活用しているのは大いに評価したい。SDGs探究活動は、生徒が今後社会に出て主体的に課題に立ち向かうための素地をつくるものである。引き続き課題解決力を育てる取組をお願いしたい。</p> <p>③④社会全体として「ICT活用＝進化した授業」と安易に考えるのではなく、ICTを活用した授業の質を今後どう高めていくか考えてほしい。</p>	<p>①GTECは検定試験の結果を分析し、課題を授業にフィードバックすることができた。今後、4技能をさらにバランスよく指導する授業改善が必要である。SDGs探究活動は、1・2学年ともに成果発表会を実施できた。探究の学習活動を他の一般科目でも取り入れていくことが課題である。</p> <p>③④学校として授業改善に係る年度のテーマを設定し、各教員がそのことを意識した授業づくりを行った。ICTを活用した授業づくりについては校内研修会を実施したが、さらに効果的な活用の検討が必要である。</p>	<p>①4技能をバランスよく指導する授業をめざし、教科として共通の目標を立て、チームで授業づくりを進めていく。SDGs探究活動については、総合的な探究の時間で実施した活動を他教科と共有し、他の一般科目でも取り入れていく。</p> <p>③④新年度における授業改善のテーマを今年度と関連させながら、発展的なものとして設定する。ICTの活用については、研究授業等も計画しながら、より全職員で取り組む体制づくりを行う。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①部活動の充実をとおして自己理解や他者理解を深める支援を行う。</p> <p>②交通安全指導を通してマナーの向上と事故防止に取り組む。</p> <p>③人権尊重の精神および規範意識を高める取組を推進する。</p> <p>④生徒一人ひとりの個に応じた生徒支援体制の確立を図る。</p>	<p>②保護者や生徒と協力し、通学路における交通安全指導を定期的に実施して、交通事故の防止に努める。</p> <p>③④いじめアンケートや個人面談をとおして生徒の実態把握及び人権尊重の意識向上に努める。また、スクールカウンセラー等と連携し、充実した教育相談を行う。</p>	<p>②交通安全教室を実施するとともに、集会で交通安全を訴える。風紀委員や保護者とともに通学路安全指導を定期的に実施する。</p> <p>③④年2回のいじめアンケートと個人面談をとおして、生徒の実態把握及び人権尊重の意識の向上に努める。また、スクールカウンセラー等と連携し、職員間の情報交換を行い、迅速な対応を図る。</p>	<p>②生徒や保護者も関わる交通安全指導が実施できたか。</p> <p>③④いじめアンケートや面談をとおして生徒理解が深まり、人権尊重の意識が高まったか。また、スクールカウンセラー等と連携し、職員の共通理解を図り、適切な支援ができたか。</p>	<p>②コロナ禍で交通安全教室の実施はできなかったが、LHR等で資料を活用して指導した。通学路安全指導では、10月に3年の風紀委員と生活支援グループの教員が1週間実施した。1月にも1年生の風紀委員とともに計画であったが、緊急事態宣言のため教員のみで実施した。</p> <p>③④年2回のいじめアンケートを予定していたが、前期は実施できず、12月に1回実施した。個人面談については、1、2年生で9月と12月に各1週間実施した。3年生については、オンラインも取り入れながら個人面談を行った。スクールカウンセラーによる相談は月に2回実施し、ケース会議も年間4回実施した。</p>	<p>②自転車の右側走行や一時停止無視など、交通ルールを守れないところがあつたので、交通安全教室をコロナの状況を見ながら実施していきたい。</p> <p>③④いじめアンケートについては、今後、常に生徒の状況を把握する必要があることから、定期的にGoogleを活用した実施も検討していく。</p>	<p>②交通安全教育は1年をとおして、さまざまな機会をとらえて指導をお願いしたい。また、有馬高校の生徒たちが、近隣の小学校の児童が登校する際、よく挨拶をしてくれており、大変うれしく思っている。</p> <p>③④課題をかかえている生徒の状況を的確に把握し、時機を逃さない指導をするのはなかなか大変なことであるが、今後とも丁寧な指導をお願いする。</p>	<p>②交通安全指導は紙の資料を使って指導を行うことができた。来年度は、交通安全教室や通学路安全指導を実施する計画だが、コロナ等できない場合も想定し、映像等による指導も検討する必要がある。</p> <p>③④アンケートや面談で生徒の実態把握に努めた。今後は、SCやSSWとも連携をさらに深めながら生徒支援を進めていく必要がある。</p>	<p>②風紀委員をはじめ、生徒みずから主体的に交通安全を考える取組を検討する。</p> <p>③④学年、教科、養護教諭、教育相談コーディネーター等の校内組織と外部人材が連携し、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制をさらに整備していく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①大学等における多様な入試形態を見据え、生徒一人ひとりの進路希望実現に向けたきめ細かな支援体制を充実させる。 ②教科における学習活動と進路指導との連携を図り、生涯にわたって基盤となるキャリア教育を実施する。	①高大接続改革や大学入試改革に伴う新テストの動向を把握し、ICT等も活用しながら、一人ひとりの進路希望実現に向けた支援を行う。 ②高大連携事業やインターンシップ等への参加を推進する。	①G-suiteなどのグループウェアシステムを利用し、的確な進路情報を提供するとともに、アンケート機能等を利用して課題の把握を行う。 ②大学、企業・事業所等と連携を図りながら、校外活動の推進に向けた広報を行う。	①グループウェアシステムを有効に活用し、生徒が進路に係る情報を適切に入手する支援ができたか。 ②大学、企業、事業所等との連携を進めることができたか。	①コロナ禍の影響で対面による進路ガイダンスは実施できず、Google Classroomを活用した進路ガイダンスの実施と進路情報の提供を行った。 ②感染症への対策としてインターンシップ等は全て中止した。そうした状況の中で、保育系短大付属の幼稚園・保育園で1時間程度の見学実習を行うことができた。また、横浜薬科大学と高大連携協定を締結した。	①オンラインによるガイダンス等の情報伝達効果は、発信側が生徒達の理解状況を把握しにくいと、対面による情報発信と比べると十分ではなかった。また、通信環境の物理的なトラブルもあった。機器・設備の改善が望まれる。 ②連携については、コロナ収束後の再開を念頭に大学・企業との結びつきを継続していきたい。	①コロナの影響はこれからは無視できない状況が続くと思うが、生徒に必要な情報の提供をさまざまな工夫をしながらお願いしたい。 ②学校の中にとどまらず、広く社会の教育力を生かした取組を今後も続けてほしい。	①G-suiteなどのグループウェアシステムを活用した進路ガイダンスを実施できた。今後、ICTと対面指導を効果的に組み合わせた支援を検討していく必要がある。 ②新たな高大連携協定を結ぶことができた。来年度はこれまでの連携を具体的に生かす取組が必要である。	①グループ、学年、教科等が連携を深め、効果的な進路情報の提供と指導を充実させていく。 ②外部機関との連携、キャリアパスポートの活用等も含め、生徒の学習活動の積み重ねを生かしたキャリア教育を進めていく。
4	地域等との協働	①生徒一人ひとりが社会参画意識をもって地域や世界とつながる意識を高める支援を行う。 ②地域等と連携・協働した災害への備え、対応をさらに深める。	①地域貢献活動、就業体験等の活動をとって地域との連携を推進する。 ②校内の避難訓練と地域と連携した防災体験訓練をとって防災意識を高める。	①地域小学校との交流、就業体験等とおして生徒の地域貢献やボランティア意識の醸成を図る。 ②年2回の避難訓練と1年生を対象とした海老名市との協働による防災体験訓練を実施し、防災に対する意識を高める。	①目的に沿った内容で地域と連携する活動を実施し、生徒が参加することができたか。 ②校内避難訓練を適切に実施し、地域と連携した防災訓練に生徒が参加できたか。	①感染拡大防止を優先する観点から、対面での活動を伴う地域との連携については、具体的な活動ができなかった。 ②今年度は、地域と連携した防災体験は実施できなかった。校内の避難訓練については、2・3年生はHRで避難経路の確認と防災カードの記載確認を行い、1年生のみ避難訓練を実施した。	①今後状況が改善し、双方の受け入れ体制が整い次第、地域と連携する活動を再開させたい。 ②校内避難訓練については、全学年合同で実施できない場合に備え、学年ごと適切な訓練が行えるよう早期に計画を立てていきたい。	①②今年度はコロナの影響で難しかったが、今後、どのような連携・協働が地域とできるのか、一緒に考えていきたい。	①②感染拡大防止を優先する観点から、地域等との連携・協働を進める活動はできなかった。これまでの実績ある活動について、この1年で経験できなかった面を踏まえ、今後どうつなげていくかが課題である。	①②これまでの地域貢献活動や就業体験等の活動を計画する一方で、それがコロナ等の影響でできなかった場合の連携の在り方を検討する。
5	学校管理 学校運営	①ICT環境の整備改善を進めるとともに、HP等を活用して本校の教育活動に係る情報発信を充実させる。 ②安心・安全な教育環境の整備を充実させるとともに、事故・不祥事防止のさらなる徹底を図る。 ③働き方改革の推進に向けて、組織的な取組を進めていく。	①③情報機器の適切な管理と活用を促進し、教材の共有化、校務処理の迅速化、効率化を進める。また、CMSでのホームページ更新体制を整備し、迅速かつ確かな情報発信を行う。 ②③中央棟トイレ改修を計画的に実施するとともに、校内危険箇所の洗い出しを進める。また、調査書や発出文書に係る事故防止を徹底し、奨学金や私費会計を適切に処理する。	①③Chrome Book等の情報機器を活用するとともに、打合せや会議におけるICTの活用で紙の資料を削減する。また、各グループのHP担当者が適切な情報発信を行えるよう研修会等を実施する。 ②③校内外の関係機関と緊密に連携するとともに、定期的な校内点検を実施する。また、事故防止に向け、複数で業務を行い組織的なチェック体制を構築する。	①③情報機器の利用を増やし、効果的な教育活動を推進するとともに、ICTの利活用で打合せの回数や時間を削減できたか。また、HP等を活用し、確かな情報発信ができたか。 ②③工事による教育活動への支障や施設関係の事故を防止することができたか。また、組織的なチェック体制で事故防止を徹底できたか。	①Chrome Book等の情報機器を活用し、教材の共有化を図った。緊急事態宣言の発令による臨時休業期間では、Microsoft Teamsのアプリを使い、会議資料の提示を行うなど、時間や紙の削減につながった。また、新しいホームページの整備を行い、適切な更新を実施することができた。 ②③中央棟トイレの改修工事が終了し1月中旬より使用可能となった。また、学校施設点検チェックシートを作成し、10月に1回目、3月に2回目の校内点検をすることができた。また、PTAや産業医を含めた衛生委員会においても校内施設点検を行った。調査書や発出文書に係る事故防止、奨学金や私費会計の適切な処理を行うことができた。	①情報機器の利活用については、まだ教員全体が使いこなせるまでにはいたっていない。今後より一層、効果的に使えるように環境整備を整えるとともに、使い方の研修を進めていく。 ②③学校施設点検チェックシートにより、修繕が必要な箇所の把握ができたが、その後の対応をどう進めていくか、校内体制の整備が課題である。また、事故防止や適切な会計処理等については、より組織的なチェック体制を進めていきたい。	①ICT環境の整備を引き続き進めていただくとともに、ホームページ等も使いながら情報発信をお願いしたい。 ②③トイレ改修、自動水栓や人感センサーによる照明の設置はとても良かった。	①校内のWiFi環境を生徒の端末に接続することで、ICTを活用したさまざまな授業を展開することができた。また、HP等を活用した情報発信については、部活動の紹介ページを作ることができた。今後、ICTの利活用をさらに進めていく必要がある。 ②③中央棟トイレの改修を実施し、学校施設点検チェックを年間2回行った。また、調査書や発出文書に係る事故防止を徹底した。今後は特定の職員に頼ることなく、組織的にチェックする体制を整えていくことが課題である。	①ICT利活用の推進に向け、校内研修を充実させていく。また、ホームページについては、各グループのHP担当者が情報発信できる体制づくりを進めていく。 ②③学校施設点検チェックで洗い出した箇所の改善に向けて、事務室と連携しながら優先順位を付けて実施していく。事故・不祥事の防止については、日常的に職員間で声かけを行い、さらなる徹底を図っていく。